

2. サッカー関連施設の利用状況

(1) 試合時の利用状況

1) 観客の利用

Jリーグ戦など、多くの観客が訪れることになり、群集心理など、思わぬトラブルを招きかねないこともある。このため、その行動を熟知した適切な対応が必要である。

観客については、早い人で試合開始の2時間前の開場と同時に訪れる。観客がスタジアムに訪れて最初にするのは、券売所で切符を買うことであり、その後、入場のための列に並ぶことになる。これらの列は長くなるため、広い空間が必要である。また、グループで訪れる人も多く、入り口の前の広場には、待ち合わせのための空間も必要である。

スタジアム内に入場した観客は、席に着いてパフォーマンスを見て楽しむ人、売店等でグッズの購入や飲食をする人、飲食をしながらその日の試合について語り合う人など、その行動は千差万別であり、多様な楽しみを提供することが重要である。

試合中は、決定的なプレーを見逃さないため、席を離れる人は少なく、休憩や飲食はハーフタイムに集中することになる。このため、コンコースや売店、トイレ等は、一度に大人数が利用できるキャパシティを確保する必要がある。

試合が終了した際は多くの人が一斉に退場することになり、これらの人の滞留スペースや交通手段の確保が必要である。

これとは別にVIP対応を検討する必要がある。彼らは専用の駐車場に車を止め、専用の入口で受付を済ませ、エレベーター等でVIP関連諸室に訪れる。

試合開始までは、飲食を楽しみ、観戦後は1～2時間程度、飲食を楽しんでから帰路につく場合が多い。

施設整備にあたっての留意点

- ▶ 各施設は、大人数の利用に見合ったキャパシティを確保する。
- ▶ 観客が速やかに移動できるよう動線を整理する。
- ▶ 観客が次回も訪れたいようになるように、各施設の快適性を高め、エンターテインメントとして楽しめる要素を付加する。

2) 選手の利用

スタジアムには多くの観客が訪れるが、選手の安全を確保するため、観客や報道関係者と接触しないよう配慮することが重要である。また、対戦チームについても接触しないよう動線、各施設を別途整備することが重要である。

ただし、報道関係者については、記者会見室など特定の場所で、選手・関係者に取材できる場所を設ける必要がある。

基本的に選手はバスを利用し、2時間前に会場に訪れるが、その際に利用するバスについても、一般の観客とは別ルートで、直接選手・関係者用入口に横付けする必要がある。

選手は入場後、着替えを済ませウォーミングアップを開始するが、フィールドとは別に室内のウォーミングアップスペースを利用するメニューも多い。

選手によっては、怪我の防止や治療のために、マッサージやテーピングをするので、マッサージ用ベッドのあるトレーナー室は重要である。

第一章 計画条件の整理

その後、監督、コーチ、選手が控室内に集まって、その日の戦術等を確認するが、その際にパソコンとプロジェクターを利用することも多くなっている。

入場に際しては、エスコートキッズを伴うため、入場ゲート付近で整列することになる。試合中はフィールドでプレーしているが、控えの選手については、試合の見える位置でウォーミングアップを続ける。

試合後は、特定の選手がインタビューを受け、治療が必要な選手は応急処置等を医務室、または、トレーナー室で行う。また、両チームから2名ずつ、ドーピング検査をすることがルール化され、対象者はドーピング検査室で所定の検査をしなければならない。その後、入浴着替えを済ませ、帰路につくことになる。

施設整備にあたっての留意点

- ▶ 観客と選手・関係者は明確に分離する等、選手の安全性に配慮する。
- ▶ 選手が優れたプレーをできるように、試合の準備に必要な各種施設を整備する。

3) 関係者の利用

サッカーの試合では多くの関係者が訪れ、その役割も多岐に渡る。夕刻キックオフの試合であっても、職種によっては、朝から訪れて準備を進める関係者も多く、当日は、スタジアム内で長時間過ごすことになる。このため、こうした関係者のための食事や休憩のための控室が必要である。

それぞれ役割が異なり、使用する施設もセキュリティの関係で立ち入れる場所も異なっている。こうした関係者の人数は、チームや試合によっても大きく異なるが、Jリーグに属するチームの事例では、クラブスタッフ（大会運営）50人、サッカー協会20人、ドクター1人、看護師1人、場内案内・警備スタッフ400人、ボランティアスタッフ130人、アドボード搬入出・演出スタッフ60人、エスコートキッズ22人等、合計684人の関係者が、スタジアム内で大会運営を支えている。

また、Jリーグ戦においては、試合に関わる全ての確認やゲーム運営上の最終判断を行うため、JFAからマッチコミッショナーが訪れるが、マッチコミッショナーはフィールドやゴールなど試合に使用する施設・器具の確認、審判員や選手の確認、公式記録の確認等、ゲームが公正に行われたか、そのすべてを確認する。

運営関係者は観客が帰った後に使用した機材の片付けや清掃等を行って、試合終了から3～4時間後に施設管理者の確認をとって、大会が終了となる。

施設整備にあたっての留意点

- ▶ 大会関係者がそれぞれの役割を遂行できるよう、それぞれ配慮された動線、施設整備が必要である。
- ▶ 多くの関係者がいるため、それぞれの部門でセキュリティが重要となる。

4) 報道関係者の利用

報道関係者は、観客や運営関係者とは異なった扱いが必要であり、立ち入れるエリアや動線は明確に分けられている必要がある。

報道関係者は放送や出版など、媒体によって異なった動きをする。テレビやラジオなどの

放送関係者は、早めに訪れてカメラやマイク等の各種機器の設置を行い、これら機材の配線も重要な作業である。また、中継車等もスタジアムに横付けすることになる。

また、新聞や雑誌の出版関係者であれば、記者は試合を見ながら、パソコン等を利用するため、机、電源、LAN 回線のある屋根付の記者席が必要である。これら記者席は、試合全体を見渡すことのできる上部に設定される場合が多い。

試合終了後は、選手・監督へのインタビュー等、一通りの報道を終えて片付けに入る。

ただし、新聞記者については、他の報道関係者と異なり、会場で原稿を作成する場合が多い。作成した原稿を本社に送ってから帰路に就くため、その作業は深夜に及ぶことも少なくない。

このため、記者関連施設のみ閉鎖することができなくなるため、セキュリティの関係から記者室は施設全体とは独立して閉鎖できるようになっていた方が管理しやすいと言われている。

施設整備にあたっての留意点

- ▶ 媒体によって異なるが、中継や撮影、記事の執筆などに適した各種施設が必要、特に放送設備の設置、配線には手間がかかるため、施設側に受け入れ用の設備が整っていることが重要である。
- ▶ 報道関係者は選手・運営関係者、観客等から独立した利用が可能となっていることが必要である。

(2) サッカーキャンプの利用状況

1) サッカー関連施設の利用状況と要求水準

a. 練習内容

サッカーの練習は午前と午後にそれぞれ1～2時間程度実施し、その大半はフィールド上で練習メニューをこなす。午前と午後の練習の合間は宿舎に帰って、休息や食事を済ませるため、芝生フィールド以外に必要な施設は多くない。

サッカーの場合、実戦形式でフォーメーションを確認するため、トレーニングマッチが重要であり、練習の目的に応じて、詳細なオーダーが出される。例えば、対戦相手に対して「ディフェンスの強いチーム」、「4-4-2のフォーメーションのチーム」、「ワントップのチーム」、「パスでつなぐタイプのチーム」、「リーグの順位が中位のチーム」など多種多様な要望があり、ヨーロッパではこうしたトレーニングマッチのマッチメイク専門の会社があるほど専門性の高い作業である。

トレーニングマッチは試合のように前後半45分でプレーする場合もあるが、特に決まりはなく、選手のコンディションや天候によって、時間を短くしたり、本数を増やしてフォーメーションを確認するなど、適宜調整している。

基本的な練習は、芝生フィールド内で可能であるが、チーム内には怪我をした選手などもあるため、トレーニングジムで基礎体力作りを行う。

また、早朝にランニングをする選手も多く、快適なランニング環境を要望する選手も多い。

練習施設の利用イメージ

芝生フィールド内の練習 午前・午後2回

ランニング、ストレッチ、コーディネーショントレーニング、ボールコントロール、パス練習、シュート練習、2対2、3対3、ポゼッションゲーム、トレーニングマッチ等

トレーニングジム内の練習

・ウエイトトレーニング等

ジョギングコース

・早朝ランニング等

b. 利用する施設と要求水準

〔フィールド〕

サッカーは芝生上でボールをコントロールするスポーツであり、フィールドの品質によって、ボールの走りが異なることから、その要求水準は非常に高い。

また、サッカーのキャンプにおける練習は、限界まで自らを追い込むため、芝の状態だけが人の出方が違うと言われている。特に膝への疲労蓄積は大きく、半月板は軟骨で再生しないため、消耗品という考え方があり、若くして怪我で引退する選手も多い。このため、足腰への負担が少ない厚い天然芝が要求される。

こうしたサッカー場に用いられる芝は、スポーツターフと呼び、公園等の芝とは品質が異なっている。これには均一平坦で、クッション性が高く、排水性に優れている必要があり、沖縄では暖地型芝のティフトン芝が適している。

ティフトン芝は、成長が極めて早く、柔らかいという特徴があり、プレーで芝が荒れたとしても、周囲からすぐに芝が成長し回復してしまうという特徴がある。その分、肥料等の要

求度が高く、施肥や刈込の手間が通常の芝以上に必要であり、その分コストも大きくなる。沖縄の場合、温暖であり、冬季でも常緑であることから、ウィンターオーバーシードしていない施設も多いが、冬季の芝は生育が落ちるため、使用による傷みを考慮するとウィンターオーバーシードが必要である。

特にJリーグのキャンプが多く行われている宮崎や鹿児島などでは、キャンプ前に施肥やエアレーションをしっかりと実施し、30～60日間は一般利用を控えるため、非常に高いレベルの品質を維持している。

また、芝生フィールドについて、1面しかなくともキャンプは実施できるが、2面あると監督とコーチが同時に2つのメニューを立てることができ、効率的に練習することができる。また、大人数での練習も可能となることから、ユースの有望選手を帯同させるなど、キャンプ地としての魅力が格段に高まる。また、フィールドが2面ない施設でも、ゴールを2セット(4個)用意することで、対応の幅が広がる。

〔トレーニングジム〕

怪我をした選手が主に利用し、プロ選手の利用に耐えうる本格的なトレーニング機器が必要である。また、エアロバイク等の利用率も高い。

〔ジョギングコース〕

早朝にランニングをする選手が多く、景色のよい気持ちの良いコースが求められる。沖縄の場合、砂浜等の利用も好まれている。

〔ロッカールーム〕

サッカーの場合、午前と午後の練習の間に宿舎に帰るため、プロ野球キャンプのような各種施設は必要ないが、荷物を置いたり、バスに乗る前にユニフォームを着替えるためにロッカールームが必要である。

〔器具庫〕

サッカーの練習にはコーンやライン引きなど、多くの器具が必要である。これらすべてを運搬することはキャンプのコストが大きくなりすぎてしまうため、各クラブから、キャンプ地で用意してほしいという要望が多く挙げられている。

〔スタンド〕

通常の練習では特に必要はないが、トレーニングマッチの場合、ほとんどのチームが試合を撮影している。撮影は全体のフォーメーションを確認することが目的であり、高さのあるスタンド席からしたいというニーズがある。

撮影はビデオカメラのみの場合もあるが、最近はビデオカメラとパソコンを接続し、運動量、フォーメーションを独自のソフトで分析しながら収録するクラブもあり、そのための電源が必要となる。

また、トレーニングマッチを有料で公開する場合もあり、その場合もスタンドが必要となる。

キャンプに必要なサッカー関連施設

フィールド(ティフトン芝で管理の行き届いたもの。冬場はウィンターオーバーシードが必要。)、トレーニングジム、ジョギングコース、ロッカールーム、器具庫。

これにトレーニングマッチでの利用も考慮する場合はスタンドが必要。

2) キャンプに必要なサッカー関連施設以外の条件(参考)

サッカーキャンプには、サッカー関連施設の品質が重要であるが、同時にそれ以外の施設やサービスについても、キャンプを円滑に運営する上で重要であり、参考として以下に必要な条件を示す。

〔宿泊施設〕

サッカーのキャンプには練習環境と同時に宿泊環境も重要である。キャンプには選手の他に監督やコーチ、トレーナー、ホペイロ(用具係)などがキャンプに同行し、約40~50名程度の規模になる。特に午前と午後の練習の合間に宿舎に戻り、休憩や食事、ミーティング等を行うため、宿泊施設に対する要求は大きい。

以下に宿泊施設に求められる与条件を列記する。

宿泊施設に求められる条件

- ◇ キャンプ地からの距離 (バスで30分以内、理想的には10分以内。)
- ◇ 食事の質 (トップチームには管理栄養士がいて、事前にホテルと相談しメニューを決める場合が多い。無理な注文はないが、料金の範囲内で柔軟な対応が望まれる。)
- ◇ 関係者だけで食事が摂れる場所 (他の客と接触せず、また、チームの結束力を高めるため、チーム全員で食事を摂れることが重要。)
- ◇ ワンフロア貸し切り (ファンなど他の宿泊客と接触しない。)
- ◇ サウナ (疲労物質が取り除かれ、回復が早いと選手からの要望が高い。ただし、これは宿泊施設になくとも、近くにあれば要望に応えられる。)
- ◇ インターネット回線 (ブログを更新する選手が多く、ニーズが高い。各部屋になく、ロビーにあった方が選手の管理がしやすい場合もある。)
- ◇ 病院に近いこと (キャンプ中は怪我の危険が生じ、近くに良い医療機関が必要。)
- ◇ 氷、水のサービスや夜食 (フルーツやサンドイッチ) を準備できるか。
- ◇ マッサージ室、用具ルーム (宿泊する室の一つをこれに充てる。場合によっては、マッサージ台を自ら持ち込むこともある。)
- ◇ ミーティングルーム・機器 (昼食後に行うことが多く、食事で使用した部屋がそのまま使用される。近年はパソコン・プロジェクターを利用する機会が多く、スクリーン等が必要。)
- ◇ 金額 (各クラブの平均延べ宿泊数は500泊以上であり、コスト意識は高い。ただし、他の要求が大きいため、金額が絶対条件ではない。)
- ◇ 練習着のクリーニング (午前と午後で異なるユニフォームをつけるため、クリーニングは多い。ホテルのサービスが利用できるか取りに来てもらえる業者が必要。)

〔交通手段〕

宿泊施設から練習場までの移動やトレーニングマッチ会場への移動など、チーム全体が移動するためには大型のバスを1日中借り切る必要がある。

また、チームによっては、何人かのスタッフが監督・選手より先に施設に入り、練習の準備をする場合があり、ワゴン車を借りて対応するチームもある。